秀賞

保健室は充電所

宮城県石巻市立万石浦中学校
２年　木村　麻央

「養護教諭です。」
将来の夢は？　と聞かれたら、私はそう答えます。
一時期は他の職業にも興味をもち、少し迷うこともありましたが、結局この養護教諭という昔からの夢を忘れることができませんでした。
私が養護教諭になりたいと思ったのは、小学３年生の頃。その日は運動会で、私は選抜リレーに出場しました。しかし、私の前に走った同じチームの子がバトンパスの際につまずいてしまい、私の方に倒れ込んできて、私も一緒に転んでしまったのです。それから私は何とか走り切りましたが、ひざにはすり傷ができ、血も出ていました。種目も終わり、この傷をどうしようと思っていたところ、走ってこちらへ向かってくる人影が私の目に映りました。その人影こそ、当時の養護教諭の先生だったのです。先生は、誰よりも早く駆けつけ、手際よく応急処置をしてくれました。その姿はまるでヒーローのようでした。
それから私は、体調不良や怪我をした友達の付き添いに自らついて行き、先生が手当てする様子を自然と見るようになりました。テキパキと作業していく先生はやっぱりかっこよくて、いつしか先生は、私の憧れの人へとなっていきました。
しかし、先生は私が小学５年生になる時に別の小学校へ転任してしまいました。私が卒業するまでいてほしかった、もう少し先生のヒーローぶりを見ていたかった……。
その後、私も小学校を卒業し、今年で中学２年となり、進路について考え始める年になりました。そして、私はその将来の夢を探してみた時に、やっぱり養護教諭という職業が頭の中に一番に浮かんできました。
そこで私は、先生に会っていろいろな話を聞きたいと強く思い、そのことを親に相談しました。すると、両親は快く
「じゃあ、先生に連絡取ってみよう！」
と、すぐに先生が今勤めている小学校へ連絡してくれ、４年ぶりに先生に会えることになったのです。
そして、いよいよ先生に会える当日。私は緊張と楽しみな気持ちでいっぱいでした。慣れない違う校舎に足を踏み入れれば、変わらぬ笑顔で出迎えてくれる先生の姿がそこにはありました。そこから、私は今でも養護教諭になりたい

と思っていることを伝えました。そして先生からは養護教諭になるために必要なこと、実際になって良かったと思えることなど、たくさんの話を聞かせてもらいました。先生は一つ一つの質問に全て楽しそうに話してくれ、本当にこの養護教諭という仕事が好きなんだなと心から感じました。すると、先生から
「自分の良い所五つあげてみて？」
と言われ、今まで考えたことがなかったのもあり、しばらく考え込んでようやく五つ答えることができました。一つ目、自分の周りには良い人が多い、二つ目、体調を崩さない、三つ目、怪我をしない、四つ目、わりとすぐ立ち直る、五つ目、人を笑わせるのが得意。そして、先生はこう言ってくれました。
「これはもう麻央さんが持っているものなんだよ。この五つを言い換えると、自然と人が集まってくる力を持っている、人を救う力を持っている、人に力を分けてあげることができる、何よりも人を元気にすることができる。良い素材を持っているね。」
その時私は、心がふわっと軽くなるのを感じました。やっぱり先生はすごいな……。
　確かに保健室へ来るのは、具合が悪い子や怪我をした子だけではない。教室に行けないような子も来る。そして、その子たちの学校生活を少しでも楽しませることも大切な役目なんだと感じました。
　また、先生は今の学校のことについても教えてくれました。それは、教室ではなくて保健室に通っている子がいるということ。その子は「保健室は充電所」と言っていること。嬉しそうに話す先生は、こう言いました。
「保健室に来てくれる子たちに寄り添って、どれくらい充電させてあげられるかが一番大事。そして、その子たちが笑顔で『ありがとう』と言ってくれることがこの仕事のやりがいだよ。」
　それを聞いた瞬間、私は「養護教諭になりたい。」という思いが、より一層強くなりました。
　これから先、つらいことがあるかもしれません。けれど私は、先生のように、子どもたちに「保健室は充電所」と思ってもらえる先生になれるように、夢へ向かって頑張ります。
　数年後、就いている職業は？　と聞かれたら、私はこう答えるでしょう。
「養護教諭です。」と。